

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2633 号

Association between class of foundational medication for heart failure and prognosis in heart failure with reduced/mildly reduced ejection fraction

HFrEF/HFmrEF 患者における心不全入院中の基礎治療薬の増減と予後との関連

伊藤 みゆき (いとう みゆき)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、心不全入院中の心不全基礎治療薬の種類を増減と退院後の予後との関連を初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。心不全患者は年々増加しており世界的な社会問題となりつつあり、複数の薬剤が心不全患者の予後を改善することが示されているが、心不全入院中の心不全基礎治療薬の最適化と予後との関係を示すデータは少ない。本研究では、心不全入院中の心不全基礎治療薬の増減様式と退院後の予後との関連について、日本における心不全入院患者についての3つの大規模多施設前向きコホートレジストリー研究の統合データを用いて検討した。左室駆出率50%未満の心不全(HFr/mrEF)のうち、心不全の既往のある患者を対象とし、3種類の心不全基礎治療薬(アンジオテンシン変換酵素阻害薬/アンジオテンシン受容体拮抗薬、ベータ遮断薬、ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬)のうち何種類が処方されているか入院時と退院時を比較して、①増えた群、②変わらなかった群、③減った群の3群に分類し、退院後1年以内の心不全再入院または総死亡の複合エンドポイントとの関連が検討された。結果、①増えた群では、②変わらなかった群(ハザード比0.56, $P < 0.001$)および③減った群(ハザード比0.58, $P = 0.004$)と比較して予後良好であったと示された。HFr/mrEFにおいて、心不全入院中の心不全基礎的治療薬の種類を増加させることは、1年後の良好な予後と関連することが示された。本研究結果は、心不全患者における心不全治療薬の最適化アプローチに影響を与える結果と考えられる。

よって、本論文は博士(医学)の学位を授与するに値するものと判定した。